THE LONDON EDITION
ザ・ロンドン エディション

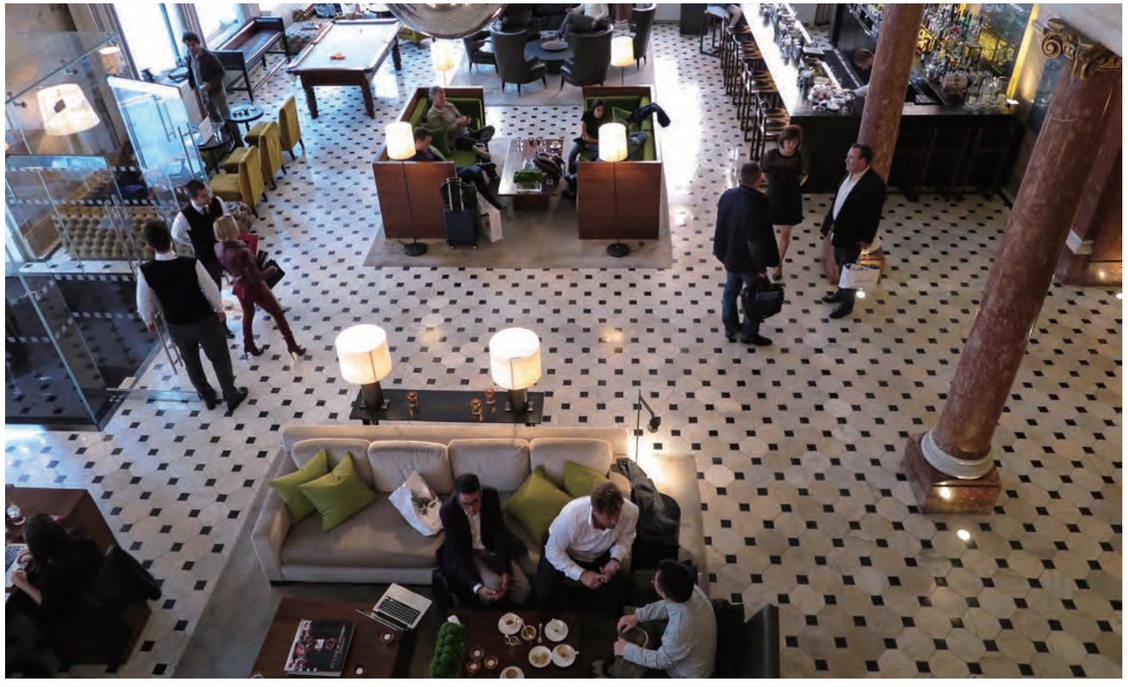
お洒落なロンドンの若者が集まるオックスフォード・ストリートから徒歩 3 分の距離に建つ“エディション”「The London EDITION」は、イアン・シュレイガー氏の“新しいタイプの集いの場”というコンセプトとして登場したリッツカールトンのニューブランドである

シュレーガー監修によるこのブティックホテル・ブランド「EDITION」が登場したことで、このウェストエンド地区はますます注目度がアップした

「The London EDITION」の正面エントランス。ドアマンも若々しいスタイルだ

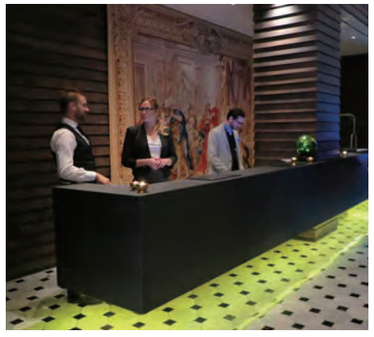
筆者 小原 康裕
ホテルジャーナリスト
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74 年 Munich Re 入社。85 年築地原健㈱代表取締役。2001 年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
www.jhrca.com/worldhotel
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。 私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第 2 弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年 6 月に発刊いたしました。 独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸甚に存じます。

ホテル館内ロビー側から望む正面エントランス



ホテル外観は歴史ある建造物の趣を大切に保ち、館内は個性あふれるデザインで、まさにアヴァンギャルドのセンスに目を奪われる。パブリックスペースは、この建物が住宅だった 1835 年前後から現在までさまざまな時代のスタイルを取り入れた、さり気ないポストモダンなデザインだ

中 2 階テラスから俯瞰するロビーエントランス



スタイリッシュなレセプションデスク。スタッフも個性派揃いだ

この建物が邸宅だった 19 世紀前半のクラシカルな一面を見せている

エントランスロビーには上には中 2 階テラスが張り出している

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテリエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

The London EDITION

お洒落なロンドンの若者が集まるオックスフォード・ストリートから徒歩 3 分の距離に建つ“エディション”「The London EDITION」は、イアン・シュレイガー氏の“新しいタイプの集いの場”というコンセプトとして登場したリッツカールトンのニューブランドである。ホテル外観は歴史ある建造物の趣を大切に保ち、館内は個性あふれるデ

THE LONDON EDITION
ザ・ロンドン エディション

人気のレストラン「Berners Tavern」は、今ロンドンで最も話題のシェフ、ジェイソン・アサートン氏が率いてミシュラン星を獲得したレストランである。どちらかと言えば保守的なロンドンだが、客層はグローバル志向な地元のセレブリティーが多い

にこやかにゲストを迎える案内嬢。店内の壁面いっぱいに飾った絵画や写真がパリのビストロの空気を醸し出している

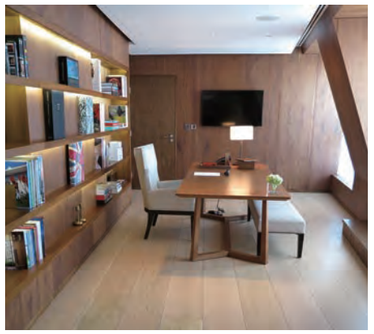
良き時代のレトロな雰囲気の中で質の高い料理やワインを堪能でき、ロンドンで一番ファッショナブルなレストランとして注目されている

エントランスロビーは広く、煌々と灯が燈る暖炉も置かれクラシカルな空気が流れる

エントランスロビー奥には「Lobby Bar」があり遅くまでにぎわっている

最上階に3つのテラスが付いた「Penthouse Suite」のベッドルーム。ベッド上に女性のコートを放り投げたような演出で、人目を引き付ける洒落(しゃれ)た効果を出している

トップフロアに約200㎡の広大な面積を持つ「Penthouse Suite」のリビングスペース



ライブラリーコーナー。深みのある木材と現代的な調度品で気品ある調和を感じる

淡い陽光が差し込むエレガントなバスルーム

最上階に三つあるテラスのうちの一つで、ロンドンの街並みが望める

ザインで、まさにアヴァンギャルドのセンスに目を奪われる。シュレーガー監修によるこのブティックホテル・ブランド「EDITION」が登場したことで、このウェストエンド地区はますます注目度がアップした。

エディション・シリーズはニューヨークなど既に世界展開しているが、ロンドンでもパートナーであるシュレーガーと、トロントに拠点を置くヤブ・プシェルバーグがインテリアを手掛ける。パブリックスペースは、この建物が邸宅だった1835年前後から現在までさまざまな時代のスタイルを取り入れた、さり気ないポストモダンなデザインだ。一方、人気のレストラン「Berners Tavern」は、今ロンドンで最も話題のシェフ、ジェイソン・アサートン氏が率いてミシュラン星を獲得したレストランである。どちらかと言えば保守的なロンドンだが、客層はグローバル志向な地元のセレブリティーが多く、ロンドンでいちばんファッショナブルなレストランとして注目されている。

ロンドン・エディションはスイートを含め全173室のスタイリッシュなゲストルームを擁して2013年に開業した。エントランスロビーは広く、煌々と灯が燈る暖炉の奥には「Lobby Bar」があり、クラシカルな空気が流れる。今回は最上階に三つのテラスが付いた「Penthouse Suite」を紹介したい。トップフロアに約200㎡の広大な面積を持ち、ライブラリー、ダイニング、キチネットなども付随している。全ての客室も同様だが、ベッド上には毛皮のコートを装った上掛けが彩りを添えている。メインダイニング「Berners Tavern」は、店内の壁面いっぱいに飾った絵画や写真がパリのビストロの空気を醸し出し、良き時代のレトロな雰囲気の中で質の高い料理やワインを堪能できる。

エディション・ブランドは、スターウッド傘下のWホテルをよりエレガントに表現したレイアウト構成である。客室は深みのある木材と現代的な調度品で気品ある調和を感じる。ロンドン・エディションはエンターテインメント性があふれるダイニング、ベッドに女性のコートを放り投げたような人目を引き付けるエスプリの効いた演出など、創造性に富んだアプローチでゲストを楽しませてくれる。